

平成 17 年 12 月 12 日

## 栃木ブロック女子学生交流会 報告書

本田技術研究所 佐藤俊彦  
宇都宮大学 山口ひとみ

平成 17 年 12 月 9 日（金）、以下の通り平成 17 年度栃木ブロック女子学生交流会を開催しました。申し込み者（学生）27 名のうち欠席者が 3 名あり、参加者（学生）24 名、足利工業大学根本先生（栃木ブロック長代理）、東京大学大島先生（Ladies' Association of JSME 主査）、宇都宮大学二宮先生（Ladies' Association of JSME 委員）と山口の 28 名で（株）本田技術研究所栃木研究所様を訪問 スケジュールを次に示します。

13.30 ～ 14.00 / 本田技術研究所栃木研究所の紹介

14.00 ～ 15.15 / パネルディスカッション「題目 女性エンジニア 理想と現実」  
パネリスト：栃木研究所 女性エンジニア 5 名

15.15 ～ 15.30 / 休憩

15.30 ～ 16.30 / 交流会（自由討論）

16.30 ～ / JR 宇都宮駅へと出発

参加者およびエンジニアは円形に並べられた椅子に着席し、15 分程度のビデオによる本田技術研究所紹介がなされました。写真 1 はそのときの様子です。5 名の女性エンジニアによる自己紹介から、パネルディスカッションが始まりました。背面には、事前をお願いしておいた以下の質問とそれらに対する回答がスライドで映し出されました。

◇学生時代の研究内容と学生時代に目指していたこと（理想）を教えてください。

◇現在の仕事内容と職場の雰囲気（現実）を教えてください。

◇理想と現実はマッチしていますか。お仕事をされる上で、どのようなことに心がけていますか。

◇エンジニアのたまごへのメッセージをお願いします。

パネルディスカッションでは、上述の内容に関連した話や、理想と現実のギャップに直面したとき、どのように対応してきたか等のアドバイスを含めた話を伺いました。エンジニアの皆様が、「無駄なことは何もない」、「逆境はチャンスである」などの参加者に勇気を与える言葉を、自然な形で参加者に伝えていた様子が印象的でした。

休憩後、参加者は 5 グループに分かれ、エンジニアを囲む形で小人数形式の自由討論が行われました。ケーキとコーヒーを口にしながら、和やかな雰囲気で開催者とエンジニア間の質疑応答が繰り広げられており、参加者同士の交流も深まったようです。

題目にある「理想と現実」のギャップがポジティブな物に変わった印象は気のせいでしょうか？

最後に、改めて 5 名のエンジニアからエンジニアのたまご達へのメッセージが伝えられ、また栃木ブロック長代理根本先生よりお礼の言葉が述べられて女子学生交流会を終了しました。

末筆ではございますが、関係各位に深くお礼申し上げます。

参考までに参加者からの感想の代表的な言葉を以下に記します。

- (1) エンジニアの皆様がとても魅力的でした。
- (2) 今回お会いしたエンジニアのようなエンジニアになりたいと思いました。
- (3) 直接女性エンジニアの方とお会いする機会がないので、自分の未来を考える上でとても良い経験になりました。
- (4) 自分の進路に対してどうしたらよいか不安に感じていたが、交流会を通して勇気付けられました。
- (5) 女性でも、男性と変わりなく働けると聞いて安心しました。



写真 1 会場の様子